

短期大学部 介護福祉学科 企画 キッズハローワークへの参加について

報告者：工 藤 雄 行¹⁾

1. 概要

令和元年10月20日（日曜日）、弘前学院聖愛中学校高等学校を会場に、地域の小学生を対象とした職業体験イベント「キッズハローワーク」が開催された（主催：おしごと体験広場キッズハローワーク実行委員会）。本学科においても、昨年度に引き続き、介護福祉士の役割や魅力について、小学生に理解を深めてもらうことを目的に、介護福祉士の職業体験ブースを出展した。テーマは「視覚障がい者のお手伝い」である。

2. 実施内容

参加者の体験内容は下記のとおりである。(1)から(7)の順で、一人につき約30分のプログラムを体験してもらった。また、参加者には、介護者役のみ体験してもらい、利用者役は、家族同伴の場合には、家族へ依頼した。同伴の家族が不在の際は、スタッフが利用者役を担当した（以下、どちらの場合でも利用者と呼ぶ）。

(1) 身支度

介護者役に参加者（以下、介護者）には、まず、体験時のユニフォームとして、こちらで用意したエプロンを装着してもらった。そして、エプロンには、自分の名前を書いた名札をつけてもらった。

(2) 介助実施前のチームカンファレンス

次にチームカンファレンスとして、介護者と指導係役のスタッフ（以下、指導係）との顔合わせを行い、これから体験してもらう内容について説明をした。「視覚障がい者のお手伝い」の具体的な体験内容は、衣類の着衣介助、歩行介助、手洗い介助、食事介助の4種類である。これらの体験を指導係がマンツーマン対応で指導することを介護者に伝えた。

体験参加への同意が得られた利用者に対しては、予め体験内容を説明した後、待機場所にてアイマスクを装着してもらった。

(3) 着衣介助

最初に、介護者から利用者に対し、挨拶及び自己紹介、本日の介助内容の説明をしてもらった。次に介護者に、数種類ある上着の中から、色や柄が異なるもの2種類を選択してもらった。選択した2種類の上着を利用者の前に持参し、それぞれの上着の色や柄について、相手が理解できるよう、できるだけわかりやすく説明するよう促し、利用者には、その中から好みのものを1種類選択してもらった。その後、介護者は上着の着衣介助を行った。利用者が一人でいえるところは行ってもらい、手助けが必要だと思う所は利用者へ同意を得てから介助するよう指導係が支援した。



(4) 歩行介助

介護者に対し、指導係から、誘導するルートや歩行介助時の姿勢（利用者には介護者の半歩後に立ってもらい、介護者の肩に手をかけてもらう）、歩行時の速度への配慮や、ルートの状況説明の大切さ（段差や曲がり角の有

1) 弘前医療福祉大学短期大学部 介護福祉学科（〒036-8102 青森県弘前市小比内3丁目18-1）

無、階段昇降の場合にはその段数等)について伝え、実際に歩行介助を行ってもらった。利用者に対しては、事前に白杖の使い方について指導係が説明をし、歩行介助時には実際に使用してもらった。



(5) 手洗い介助

歩行介助後、介護者には利用者をテーブル前の椅子に着席するよう誘導してもらった。その後、介護者が手洗い用の洗面器を設置し、手桶で水をかけながら利用者の手洗いの介助を行ってもらった。

(6) 食事介助

今回は、ジュースにとろみをつけたものを介助し食べてもらうことを食事介助の内容とした。介護者が利用者にジュースの味（アップルジュースとオレンジジュース



の2種類から選択)の好みを聞き、選択した方のジュースにとろみ剤を入れ混和した。その後、とろみのついたジュースを実際に利用者に介助し食べてもらった。利用者に口を開けてもらう声掛けや一口の量、嚥下状態の確認、二口目以降のとろみのついたジュースを口に運ぶタイミング等については、都度指導係が声掛けした。食事介助終了後は、介護者から利用者に対して、本日の介助内容終了の挨拶をしてもらった。



(7) 介助実施後のチームカンファレンス

最後に、介護者に今回のプログラムに参加しての感想発表等をしてもらい、質問等があった場合は都度指導係が回答し、プログラムを終了した。

3. 参加者の状況

当日、本ブースにて介護福祉士の職業体験をした小学生は32名であった。参加者の状況については、別表1の通りである。性別で見ると、男性8名、女性24名で

あり、女性の参加数が多かった。学年別でみると、3年生が14名（43.8%）と一番多く、次いで1年生が8名（25.0%）と多かった。

表1 参加者の状況

実数=人数、()=%

1. 性別

男性	女性
8 (25.0)	24 (75.0)

2. 学年

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
8 (25.0)	4 (12.5)	14 (43.8)	2 (6.3)	3 (9.4)	1 (3.1)

4. 参加者の体験後の感想

参加者から体験後に寄せられた感想について、いくつか紹介したい。

- ゼリーを作るのが楽しかった。(1年生女子)
- 段差を教えるのが難しかった。(2年生男子)
- 「段差があります」というのが上手く言えた。(3年生女子)
- かけ声を大きくしないといけないところが難しかった。(3年生女子)
- 最後までできてよかった。(4年生女子)
- コミュニケーションがあまり伝わらなかった。(5年生男子)
- 上着を着せるところが難しかった。(6年生男子)

5. まとめ

小学生にとり「介護福祉士」という職業は、恐らく日常生活の中でも関わる機会がないため、あまり馴染みのない職業かもしれない。今回の体験プログラムを通して、職業理解の一助となれば幸いである。自ら提供した介助行為に対して、利用者役の保護者から「ありがとう」と声を掛けられると笑顔がみられたり、体験した着衣介助を、今度は自分の祖母にもやってあげたいと話す小学生もいた。限られた時間ではあったが、介護福祉士の仕事の魅力について、少なからずアピールできたと思われる。今後もより多くの地域の小学生に職業体験の場を提供できるよう取り組んでいきたい。

6. 当日の主な役割分担

総括	工藤 雄行
受付	相馬 陽子
指導係 (一部、利用者役)	中村 直樹、相馬 陽子、福士 尚葵、 工藤 雄行
介護福祉学科 学生ボランティア	2年生 上林 愛、奈良岡一輝 1年生 新谷奈津子、金子 弓莉、 貴田 祐樹、三上 恋